

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170201457
法人名	医療法人社団 日翔会
事業所名	グループホーム つつじ
所在地	鳥取県米子市米原6丁目9番地23号 (電 話) 0859-37-5220

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	平成19年10月22日

【情報提供票より】(19年8月21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13 人, 非常勤 0 人, 常勤換算

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.4歳	最低	59歳	最高	90歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 下山医院、医療法人 高野歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して2年が経過したグループホームである。米子市街地に新しく建設されたホームなので便利が良く、明るくて採光の良い環境である。要介護1～4までの利用者が入居されているが、皆さん落ち着いて穏やかに暮らしておられる。職員の方は比較的若い方が多いが、法人の理念の基に利用者のペースに合わせたケアを目指して頑張っておられる。地域との交流も図られ、米原祭りや敬老会などに参加している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の要改善課題は、各々検討され改善に努力されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者をはじめ各ユニットのリーダーが主にされた様だが、各項目について職員の意見をよく聴取されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されていて、地域の自治会長2名・老人会の会長等出席されている。地元の米原祭にも参加されていて、地域との連携を取る努力をされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情等は、意見箱よりも口頭や電話等で直接言われる事が多いとのこと。ホームとしてはすぐに対応していて、その後の運営にも反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敬老会にも職員が付き添って参加をしたり、少しずつ地域との付き合いも広がりつつある。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お客様一人ひとりの思いを大切に、家庭的な雰囲気の中で、安心して楽しく生活できる暮らしの場を作っていきます。」という理念の基で、職員が一丸となりケアに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現場で日々提供しているサービスが、理念に繋がって事を管理者と職員は周知・共有しており、日々実践的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会役員に働きかけ、自治会活動への参加で利用者の為にテントを確保してもらったり、地区の敬老会への参加も心良く声掛けてもらったり、隣接している高校の学生との交流も定期的に行われ、地域との付き合いに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の改善点について、管理者始め職員全体で話し合い、改善に向けて取り組みがなされていた。今年度から地域密着型に変わったこと事も受け、更に地域の人々との交流に力を入れている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、定期的に運営推進委員会が開催されており、今年は自治会へ働きかけ、会長以外にも役員の方が委員会参加メンバーとして参加してくれている。また、地区の老人会の方や家族の方も参加されており、活発な意見交換がなされている事が議事録で確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連携・交流は、なかなか機会が無く、地域包括との交流や連携が多く、サービスの向上に繋がるように取り組みがなされていた。	○	行き来する機会を多くするよう働きかけ、グループホームにも来てもらったり、市役所にもなるべく顔を出したりする方が何かと良い情報も得られるのでは？
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等は毎月職員の直筆のお頼りで定期的に報告がされていた。また、受診時や服薬の変更等に関しても、随時家族の希望する時間帯や連絡方法で報告がされていた。		家族アンケートで「職員の移動については報告が余りない。また、担当職員の顔と名前が憶えられない」と言う意見が寄せられている。担当職員の変更については、家族へ月のお頼り等で写真入で自己紹介などして見られては如何でしょうか。また、職員の移動に関しても、移動の挨拶等お頼りで報告されるのも方法の一つと考えられる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の希望や意見、不満は面会時に直接管理者や職員に対し述べられていた。頂いた意見を職員全員で話し合い、利用者や家族に対し、しっかりと説明・納得をいただいていた。また、再発が無いように、全職員に回覧・周知がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の移動で、管理者と職員の移動・退職があったが、利用者に対しては特にダメージに繋がるものは無かったようである。家族アンケートからは、「職員の移動については知らせたい」、「職員の顔と名前がなかなか覚えられない」等が寄せられている。	○	法人内の移動、退職時等は、利用者及び家族に職員の交代の挨拶をされると、信頼が更に深まるのではないのでしょうか？時間的な余裕が無い場合は、毎月のお便りで、写真入での挨拶も良いと考えます。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修について、管理者とユニットリーダーが現状を見ながら、その職員のスキルに合った研修の受講を薦めている。全体に関係する研修内容については、研修の通知を回覧して、職員の希望に添える様に、機会を確保している。研修に参加するのはシフトの交代等で対応されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の相互研修に参加しており、総合研修終了後に、訪問したグループホームからクリスマス会の招待を受け、利用者と一緒に参加している。協会以外にも、同法人内のグループホームでも相互研修を独自に展開している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の見学や、ディサービス利用からの入所等、利用者及び家族と相談しながら、状況を見ながら入所やサービス開始をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に利用者のペースでサービスが提供されている。訪問当日では、食事の準備をしている利用者や洗濯物をたたんでいる方、「詩」を読む方の横で職員が聞いていたり、共に時間を共有し、支え合う姿が見られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員でセンター方式を用いて、利用者ひとりひとりの思いや暮らし方について再度見直し、希望や意向について職員全員で話し合い、把握に努めている。困難時は本人本位の行動・思いを優先し、見守りながらサービス提供が成されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式や家族から抽出した希望や思いを踏まえ、利用者の担当職員と計画担当者が話し合い、介護計画の原案を作り、その原案の基で、管理者が担当医や看護職員の意見を踏まえ計画担当者やホームでの介護計画を作成し、家族に説明し納得を貰っている。家族アンケートからも介護計画について解りやすく説明があり、一緒に内容に関する話し合いにも参加されている事が確認できた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて定期的に見直しがなされている。また、利用者の変化や状況に応じ、随時介護計画が変更され、家族・担当医・看護職員と連携を取りながら、現状に即した介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わり受診や買い物、散髪等の外出のサービスが提供されている。また、併設のディサービスの利用者と一緒に映画の上映会が開かれたり、柔軟な対応がされている。		ディサービスが併設されている状況を上手に利用し、ディサービスの利用者との交流の機会を増やすなどして、多機能を活かしたサービス提供がもっと出来るのではないかと思います。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入所前のかかりつけ医への受診が開設以来、続けられている。家族の希望等でかかりつけ医等の変更も支援が成されている。家族が受診への付き添いが出来ない時は、職員が受診に付き添い、その都度家族へ結果報告がなされている。服薬の変更時も連絡がされてる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に突入している利用者が医師の判断で入院し、数日後に亡くなられたケースやターミナル寸前で、医師と連携し、褥瘡ケアをホームで続け、褥瘡が治癒し元気になられたケースも経験されているが、重度化した場合や終末期の有り方について、今後も家族やかかりつけ医との話し合いを薦めて頂きたい。		法人や施設で重度化・終末期に向けた支援方針について具現化され、利用者の家族や医師との連携についても、早い段階での話し合いをされる事を希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者本人と同じ視線で声掛けや対応がされていた。記録も極力見えない所や職員事務室に置かれており、個人情報についての取り扱いには気配りが成されていた。プライバシーを損ねるような言葉掛けや対応は見受けられなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースで思い思いに過ごされており、針仕事されている方や、詩を読む方、ホーム玄関の花の水遣り、ハーモニカを吹く方等、それぞれの希望に沿って支援が成されている。		食後に薬を希望されている利用者に対し、職員が複数回待たせる場面が見受けられた。臨機応変な対応も必要ではないでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備も利用者の持っている力を引き出しながら、職員がお願いする等一緒にされている。食後の後片付けも、利用者が出来る範囲で行われており、職員がお礼を言いながら、見守りをしている。好き嫌いで残している物にも声掛けしたり、水分補給もさり気なく薦められていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食後に入浴希望や就寝前に入浴等、利用者の希望に応じて入浴支援がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム玄関入り口の水遣りやホーム敷地内の畑での野菜づくり、収穫したじゃがいもを用いての料理等、役割や楽しみ事への支援がされてる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出掛けたがらない利用者が多いとの事。2日に1回のペースで食事の買い物に出かける時に、職員が声掛けし、お誘いしている。利用者の希望があれば随時お出かけし、買い物等の支援が成されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び職員全員が「鍵が月の弊害について理解している。居室の鍵かけは成されておらず、前回の評価でも課題となっている玄関「鍵かけ」についても、改善していたが、ホームのプライベートスペースに不審者の侵入が二回併設施設職員により、目撃されている事から、職員全員での話合いで玄関の鍵は再度かけられることになった。畑に行く勝手口は自由に入出入りできる。玄関の方に行く利用者が見受けられた時に、職員がそっと寄り添い、自由に出られるように支援が成されている。		自治会や地区住民にもホームをもっと解って貰う事で、自治会のパトロールコースにも入れて貰う等啓発して行く事も必要ではないでしょうか
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時等の避難訓練は併設のディサービスの利用者と一緒に行われている。消防署の協力も頂き、避難時のアドバイスも職員全員で周知されている。備蓄もあったが、少量であった。		人数分の対応が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量や水分摂取量も日々記録されている。利用者一人一人の習慣に応じて、居室でのお茶の持込等についても把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共有空間は適切な温度・テレビの音量、遮光等の気使いが成さ、心地よく過ごせ様に配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は各自思い思いの品を持ち込み、本人希望で使いなれたベット・ダンス、机等も持ち込まれている。		